
THK研究会

rutu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

THK研究会

【コード】

N5004G

【作者名】

rutu

【あらすじ】

THKの研究がいま熱い！？主人公の松本純が大学生活を謳歌します。

第一話 序

カッカッカッ

コッ

シュツシュ

一人暗い部屋で赤本に向かう。

午前2時

担任の高橋先生は必ず試験前日は最低12時には寝ろと言っていたがそんなの関係ない

とにかく不安を打ち消すために

手を動かす。

カキカキ

カキカキ

そして叫ぶ

「S大学いきてー」

S大学は超人気大学。

首都のど真ん中にあり。

遊ぶところがいっぱい。

田舎者の自分にとって、S大は桃源郷だった…

おっと違う！違う！

学生の本分は勉強一本。

この大学選びは自分の将来をしっかりと考えて先生と決めたことだ。
何を考えているんだ自分。田舎で待っていてくれていた両親だってブ
ツブツ…

自問自答はきりがなし。

気分転換にシャワーを浴びることにした。

泊まっているホテルは大学に近いし安い。

ただしボロボロ。

シャワーの温度調整も恐ろしく難しい。

熱湯、冷水、熱湯、冷水。

二月そして貧弱な受験生の体には酷だ。

なんとか適温を探しだしゆっくり疲れた体をいやす

「ふー」

つかの間の休息。

ガチャ

ここでシャワーの音とは異なる音が。

体が一気に硬直する。

緊張。

扉の開く音？

そういえば、鍵閉めたっけ？

この安ボロホテルは当然オートロックではない…。

辺りを見回す、武器になるものは…

何もなかった。

本当に何もなかった。

強盗が武器を持っていたらどうしようもないな。

覚悟を決めてシャワー室の扉を開けた…

驚愕。

泥棒、強盗のたくいならまだ理解の範疇。

まさに戦慄の光景がそこには広がっていた。

暗い小さな部屋、今夜自分が一人眠るはずのベッドの上に同じ年または年下とおもえるくらいの子が座っていたのだ。

自分はシャワー室の前に立ちつくし、後ろに下がりその場に力なくしりもちをついてしまった。

彼女はゆっくりたち上がり一歩一歩近いてくる。

僕は目が悪いため彼女の姿をはっきりとは見ることはできなかった。

「松本純君だね。」

「どっどっして僕の名前を…?」

やばい質問がぶっとんでやがることは

『お前は誰だ 出ていけ!』 だろ…

腰をかがめ、ぼくにほおをくつつけるようにしてしゃべりかけてくる彼女は背は少し小さいが髪体のラインは最高だ。

こんなの雑誌の表紙とかでしか…

!!

ていうか、タオルしか巻いてない。

途端に自身の下半身の異変に気づく。

自分の好みど真ん中の女の子が半裸で自分の横にいるのだ無理はない。

反りかえっていた。

自分の知る限り過去最高。シャワーから出て、自分も腰にタオル一枚だったからやばいくらいよくわかる…

甘酸っぱい声が耳元で囁きかける。

「興奮してる？」

やばいやばい。

動悸がどんだんはやくなる…こいつ誘ってたのか。金がいるのか？間違えて風俗のホテルにしたか？田舎者にたいする都会のもてなしかたか？それとも親の粹なはからいか？

感覚が麻痺していくこれはやばい

また甘酸っぱい声が…

「もつとかな？」

彼女がタオルに手をかけようとした…

「うわああああ」

ビュー

鼻血、そして、気を失った。

ゴメン親。先生。友達。自分。

ぼくには刺激がつすぎた。

鼻血男。松本純は極めて女に抗力がないことがわかった。

微笑み

そして彼女は男のタオルをはがした。

「これは…」

次の日の朝

ベットの上で目が覚めた。

だが昨晚のことは夢だったようだ。

部屋は別に変わった様子はない。

少し残念で、大変安堵した。

「まあ、いいか。」

気持ちもなんかすっきりし試験にそのまま突入したぼくは合格を勝ちとった。

ただし、大学入試はゴールではなくスタートというのがその通りだった。

ぼくは試験前夜の美少女との時間を甘く見ていた。

正確にはただ忘れていたのだから。

ここまでは序章に過ぎない。本当に。

先には
僕が彼女たちに巻き混まれたはちゃめちな大学生活が待っていたのだ…。

ガサガサ

合格通知の後ろになにか…
< T H K 部入部試験合格 >
T . M

純「これは…何？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5004g/>

THK研究会

2010年10月21日23時18分発行